

教文通信写真館

ルリビタキ 2024/02/24  
松本市

写真とエッセイ:伊藤広昭さん(生物教育研究会 松本県ヶ丘高校)

青い鳥というと...

エッセイの続きは8P

# 教文通信

発行所

長野県教育文化会議

発行人

寺尾 真純

## 今号の記事

01-05

第2回総合研究会 報告

特別支援教育を考える総合研究会

05-07

第5回総合研究会 報告(前編)

授業づくりを考える総合研究会

08

伊那北高校職場教研

書籍紹介

『日本の民主教育』

## 第2回総合研究会(2024/06/22) 報告 特別支援教育を考える総合研究会

### 趣旨説明

この総合研究会のテーマを『どう創る!すべての子どもたちに豊かな学びを』とした。副題として具体的に「特別支援教育におけるICT・テクノロジー導入のメリット、デメリット」とした。

ICT教育の急速な拡大、デジタル技術の活用に向けて多くの高校教員がコロナ禍以降ICTに翻弄されながらもやるべきこととして技術に追い付こうとしている実態があること。さらに、特別支援教育の観点からは、ニーズを持つ生徒たち、発達障がいや、あるいは知的な困難を抱



2024/6/22 松本市勤労者福祉センター  
オンライン併用 ハイブリッド開催

### 情勢報告

デジタル版39号で報告

### 講演

## 「子どもの学びの理解とICTの有効な活用」

～子どもたちはゲームや  
スマホで何をしているか～

講師 岡 耕平さん

慈恵医療科学大学  
大学院教授

え、貧困も伴い高校生活を送る生徒に対して、「ICTを用いた個別最適化学びの提供」とは、更に3観点評価は特別なニーズを持つ子どもにとってどう作用するのかを考える。

また、この総研が2009年に三者合同開催で発足した当時の原点に戻り、障県協からは原金二さん、全障研長野支部より太壽堂雄介さん、高校現場からの報告を教文会議「多様な学び、生徒理解と発達研究会」の北原恵美さんより現状と課題を報告する。

## ○ゲーム・ネットは子どもにとって罪悪か

時代とともにライフスタイルには変化があり、子どもと大人のライフスタイルの違いやコミュニケーションンススタイルの変化について知ることから、ゲームは罪悪だろうか？ について「ある男子小学生のネットとデバイスの利用事例」からスマホに支配された子どもを取り巻く世界が紹介された。

ゲームやスマホに対する「大人の懸念」がある。スマホを持たない子どもはLINEでなくても、ネット、ゲーム機、学校で使用するタブレットなど通話ができるディスコードを使い分けて通信しながらチームでオンラインゲームなどを行うため、親がスマホやゲーム機を取り上げることには意味がないなど、大人には想像もできないコミュニケーションメディアとしてSNSを利用している実態がある。

ファミコン世代の大人（現在の40歳代後半）にとっても、30年前にはなかった「課金」やゲーム



内での「有料ガチャ」の登場など子ども世代への心配は尽きない。その上SNSにおいては自分と価値観が似ている4〜5人の関わりを持つことによる（エコーチェンバー）仲間意識の形成や、個人が検索する興味関心によってウェブサービスのアルゴリズムが違ってくるフィルターバブル（自分だけにカテゴライズされている）によってアプリケーションの使い分けやグループの使い分けなどコミュニケーションスタイルの変化が起きている。

ゲーム依存はWHOによって認定されたが、ドイツ、イギリスの調査によると日常的なゲームが将来の行動障害やうつ病との関連性は認められなかった。

しかし、SNSに起因する事犯の被害児童のデータでは、被害を受けた子どものほとんどが、親による「フィルタリング機能」を用いていないことやネットに繋がる時間が長いほど子どものネットいじめ／いじめられ経験は増える実態が明らかである。子どもが「自分のネット行動や使用時間を親が知っている」と感じているほど使用時間は短くなる結果がある。

## ○ゲーム、SNSのポジティブな影響について

ゲームやネットは「バーチャル」に閉じておらず、子ども同士はそれらを通じてリアルな機会や対人関係を獲得している。また、かなりクリエイティブな使い方ができる例もある。

使い方のメリットを知らないのに「使うと危な

い」と言っても使用者には伝わらない。しかも、時間をかけないと面白さやその機微を理解することは難しい。結局は使い方次第である。ただし、勉強嫌いの子どもたちがなぜゲームの話を喜んでするのか？ その理由を考える必要がある。

現代ではゲームそのもので大人が子どもに対して完全に制限をかけることは無理であるが、どう使うか、どう導くかが重要であり大人の価値観のアップデートが必要である。

## ○ゲームにはまる理由

子どもたちはゲーム以外に楽しい事、面白いことを知らない。行動分析学では人間の行動は二つに分けられる。一つは「欲しい何かを得るための行動」いいことがあるから行動は増える（強化される）。一方、「嫌な何かを避けるための行動」では、子どもはゲームをしている間だけは嫌な何かを忘れられる。大人は子どもに対してゲームをすることではいい結果が出ないことから弱体化や消去をさせたいがために、子どものゲームを取り上げるパターンが始まる。しかし、子どもは何らかのがんばりから褒美としてゲームを少し認められる。



すると結果として子どもはゲームから抜け出すことはできない。逆に、ゲームを制限内ですることによって強化される結果となる。

### ○時代の変化と子どもたちの反応

教師が評価を公平・客観的にしようとするほど評価基準に段階が生じ評価が頻回になる。その結果、指示を理解して自分で計画的に遂行できる子どもが高評価になり、出来ない子は支援が必要とされる。

大阪の事例では、絶対評価のため課題を課すことにより優劣をつける。できる子はできるようにするが、出来ない子との差は開き、追い付けない子どもは不登校に繋がる例も出る。また、特別な支援が必要な子どもは増えているが、教室に戻った時に遅れをリカバリーできないことから不登校に繋がる実態がある。

### ○問題が生じやすい「配慮」

合理的配慮（リーズナブルアコモデーション）とはゴールを変えずに手段を調整することである。ゴールを変える場合（モディフィケーション）にはリスクも伴う。合理的配慮をすると努力をしなくなるという考え方ががあるが、合理的配慮とは「同じスタートラインに立てるように環境を整えること」が目的である。努力すれば獲得できることが行動の強化となる。ICT利用は努力することができるような条件に整えるためのツールである。社会に出た場合の配慮申請は配慮がなぜ必要なのかについて本人からの説明が必要となるため、その準備として高校在学中に練習が必要とな

る。また、以下5つは合理的とは言えない問題が生じやすい「配慮」の例である。

- ・課題が出せない子どもへの「声掛け」・読むことが難しい子どもへの「ルビ振り」・書くことが難しい子どもへの「撮影許可」・記述回答が難しい子どもへの「穴埋め問題」化・

課題が難しい子どもに対する課題の「免除」。これらのいずれもが将来に向けて個人の最善の利益とはならないため合理的とは言えない。高校の授業内では最も使われやすい配慮内容である。

### ○インクルーシブ教育の間違った理解

手厚い特別支援教育、特別待遇を国は進めてきたがそのことは、普通の人と同じ生活を可能にしようとする既存のシステムへの組込方向であり結果的にインテグレーションであった。インクルーシジョンとは多数派向けの仕組みを見直しその結果いろんな生徒が参加可能となる既存システムの改善である。

現在想定されている「個別最適化された学習」は学び方の多様性を謳いつつ、学ぶ内容は多様化されていない。ゴールが「学力」ひとつであるため無理と考えられる。人は特定の環境や関係性の



中で能力を発揮している。それぞれの子どもたちがどういう環境や関係性で最もパフォーマンスを発揮しているかを見る必要がある。

昨年、全国に先駆けて、松本養護学校（ろう学校）、長野養護学校（ろう学校併設）に長野県特別支援教育ICT・ATリソースセンターが設立され、どのようなテクノロジーが有効かについて研究・活用が行われている。ICT先進自治体であることが紹介された。

### ○質疑・討論

Q…中学校では、特別支援学級でも個々にタブレットに向かい「個別最適化」の「進度学習」を行う時間を作っている。ICT利用が目的になっているこの方向性は有効か。

A…岡先生 アメリカのコンピューター学習理論によるティーチングマシンは80年代に大流行したが、一問一答形式のため失敗に終わった。現在のアメリカでは個に応じたPCの使い方としてテスト時には個別に画面に向かい、難易度が徐々に上がる問題形式の方法で個別にPCが行われている。テストに取り組む時間も個々により違う。教室があり、集団がありながら、教師もいる中でそのリソースを使わないことは残念。子どもたちが一律にタブレットに向かうことはいいとは思わない。スタディサプリのポイント制、グループ対応で競わせるなど子どもたちにとって全く意味のない取り組みもある。

Q…ゲームに没頭している状態から他のものに「乗り換える」とはどのようなやり方があるか。

気持ちを切り替える方法とは。

A…岡先生 周りの大人は子どものゲームを制限したいと考えているが、本人たちに困り感はない。害になることは何なのか、大人は健康上の心配や、やるべきことをやらないことの苛立ちからか、やがて困らせてやめさせるような罰を与えるようになる場合すらあるが罰からは何も学ばない。ゲームに替わる楽しいものはなかなか見つからないが、子ども同士で取組むことの関係性が有効になることもあるのでは。

Q…通信制高校では、**就労に向けて保護者の理解**にも苦労がある。単位制多部制高校における「**通級による指導**」においては**就労担当コーディネーターが担任と共に保護者との懇談**を行い手帳利用など就労に向けての理解を得て進めている。

A…岡先生 「本人に自分の障がい受容ができていない」というが、本人に対して使う言葉ではない。この言葉を使わずに問題解決する方法を問うべきであって、本人の目の前にある課題をどうクリアしていけるかをそのたびに考えることが必

全



要。特に進路決定に関しては、自分の子どもに対して「障がい」という言葉を言えるか？を考えた欲しい。進路決定では壁にぶつかる子どもたちに対して「この困難にぶつかるとは何故なのか、なぜ上手くいかない状況が続くのか」そのことを本人が疑問に思い困り感を持つ認識が必要。効果的であったのはソーシャルワーカーに立ち合いを依頼することなどがある。

■長野養護学校分教室より… 自分たちで作り上げた修学旅行のお話をいただいた。一人の車酔いをする生徒のために生徒たちが計画から行い、本人たちが現地でも自転車を使い雨の中雨合羽を購入して、成功体験もあったがうまくいかなかったことが学びになったことがいい機会となった。

■小中学校で発達障がいがある学校に行きづらい実態は多いかと思う。長野市には閉校になった学校を使い、学校に行きづらい子どもたちのための居場所づくりが進んでいる。特徴的なものは実際に登校しなくても自宅にてマイクラ（バーチャル空間）で

学校を体験できる。全国の流れはどうか？

A…岡先生 全国的には都心でもテクノロジに強い教師がいるところでは行われ始めている。学校単位で行っているN高、VRC学園などがある。教師を応募して建築のプロな

どがバーチャル授業を行っている。N校がうまくいっているのは生徒数が多いからである。万人に対して上手くいくわけではない。

■特別支援学校より… 県のリーダーが各校を回り、「行動分析」的な動きがある。行動障

害が問題になる中では、例えば教室に入れない生徒に対して褒美（シール、好きな音楽が聴けるなど）を与えながら行動変容を求める動きがある。本人の気持ちを置き去りにして行動上の問題があるという見方があり、「生き生きと生きている」などの見かたは教師の主観であり、エビデンス中心教育（何を回数と測定するなど）の考え方が入ってきたのは、教師の人手不足の効率化と感じている。

A…岡先生 行動分析とは、やらせたり、変える事が目的ではなく、行動の理由を分析することに重点を置くべき。言い訳として「それでは就職できない」など押し文句のようになっていくことがある。昨今「行動」に着目されていることをベストセラー三宅香帆著「なぜ働いていると本が読めなくなるのか」からも感じる。新自由主義、自己責任論と相性がよく「行動を変えましょう」



には警戒するべきと感じている。

■商業高校では学校内の研修会もあるがなかなか深まらない印象がある。専門的な部分について学んでいる方とどうつながっているかが大事かと感じている。現在の子どもたちはネットで気の合う者との仲間意識が強く、考えの合わないグループの意見を知らうとしていない。ぶつかることもしなければ、わかり合うこともしない状況があるように感じる。

■工業高校では、実習授業がある。実習では障がいがある生徒の周りに困難がある。少しのミスが生命にもかかわることもあるため教師は気を遣う。事故が起こることもある。

等の実態についても交流することができた。

### まとめとして

最後に教文会議寺尾議長より、じっくり議論をすることが少なくなっている実態があります。特別支援だけでなく同じ職場や保護者とも話を深めることに繋がるように勧めていきましようとして締めくくられました。



教文常任 北原恵美

## 第5回総合研究会（1月11日） 授業づくりを考える総合研究会

前編

期日 2025年 1月11日（日）

会場 松本市勤労者福祉センター 215教室

（オンライン併用）

参加者 38名

研究会趣旨説明 教文事務局

義務教育が中心だが、「信州 Basic」として「板書計画」でチョークの色までアドバイスされているのを見た時、創造的な授業はどうあるべきかを考えた。文科省は中央教育審議会に次期学習指導要領改定の諮問をした。「多様性を包摂する教育の実現」「情報活用能力の抜本的向上」を強調し「教育課程の柔軟化」を示しているが、その実は、生成AIやデジタルの無批判な利活用、多様な子どもたちの包摂にもデジタル学習基盤を活用するとする。

現学習指導要領では資質・能力論に立脚し、教育方法や評価方法を限定して画一化を現場に押し付ける事態が進行している。

本研究会では授業づくりを考えるとしてテーマを設定した。画一的な授業から創造的な授業構築をどのように考えるか、探究的な学びの視点をどのように設定するか、そして公教育の担う共通教育や教育実践の保証をどうすべきか皆さんで考えたい。

報告（1）「県立歴史館でできる探究的学び」

鈴木 実さん

長野県立歴史館文献資料課 文化財指導主事

●長野県立歴史館についての説明

長野県立歴史館の概要 今年開館30周年

●県立歴史館の学校支援メニュー

①展示見学

②レファレンス

③史料閲覧

④キャリア教育

⑤講座・研修

●中高生向け講座・授業

①ティーンズ講座

②出前講座

●探究学習と博物館「博学連携」を軸にした運営と実践の報告

①ナマの史資料（現物・情報）にアクセスできる。

②生徒の主体性を引き出す。

③PR効果期待 博学双方にとってWin-Winな関係

歴史館Ⅱ学びの成果を社会へ発信



生徒Ⅱ主体的な探究学習を通じて自己肯定感の向上

現在(2025年1月)の企画展・・・佐久間象山の書を展示するとともに、地元の高校(屋代、屋代南高校の書道班の作品のコラボ展示を実施)

鈴木さんは、かつて諏訪実業高校、駒ヶ根工業高校に勤務し、総合的な探究の授業を指導した経験もふまえ、総合的な探究の時間の授業等で積極的に歴史館や博物館を活用し、生徒の主体的な学びのツールのひとつにしてほしいと述べられた。

## 報告(2)「探究学習の困りごとについて」

### ―学校図書館としてできること―

竹腰史佳さん 南安曇農業高校 学校司書  
・安曇支部の高校における探究学習の現状

長野高等学校

図書館協議会安曇支部(7校)

の報告書では、南安曇農業高校以外では探究的な学習の時間に図書館が有効に利用されているとは言えない状況で、各校とも独自の方法で探究



活動に取り組んでいる、としている。

・安曇支部の研究会で探究学習をテーマに講演を計画。指導のどこで困っているのか、図書館が活用されにくいのはなぜかアンケートを実施。

・アンケートの内容

①探究学習を指導する上での困りごと

②学校図書館の利用

③図書館を使わなくてよい理由

④図書館利用の問題点

⑤研究会講師に聞いてみたいこと

・アンケート結果と困りごとの分析

困っていること・・・

評価がしにくい↓プロセス、発表、成果の評価が難しい

テーマを決めるのが難しい

どのように指導していいかわからない

・QCの手法で探究関連の問題の解析と共通化をはかる

はかる

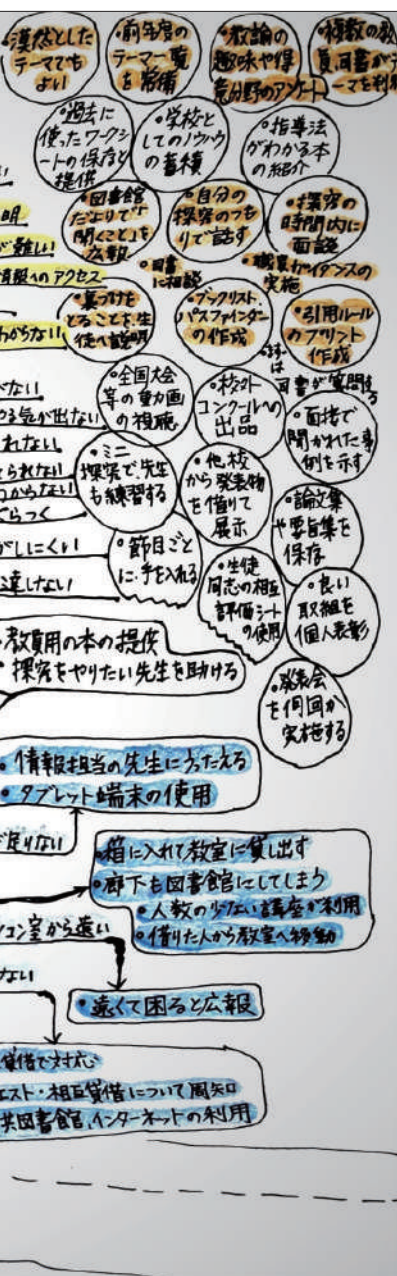
〈南安曇農業高校での実践〉

・南安曇農業高校では、従来から農業科の探究授業があつたので、ノウハウがあつた。

・農業科の教職員が中心となり指導している。(普通科の教職員は直接指導に関わらない)

・探究用のアプリもあり、うまく使うことも有効。

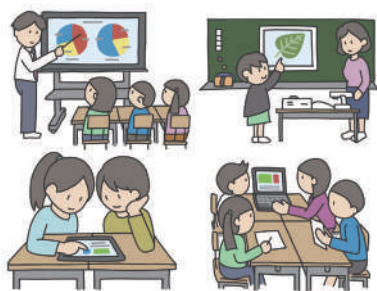
・探究用のアプリもあり、うまく使うことも有効。



・南安曇農業高校は全員が研究内容を発表するので、生徒のモチベーションが高い。

・探究学習の成果論文集の図書館システムへの登録と論文集の作成。↓過去のテーマも確認できる

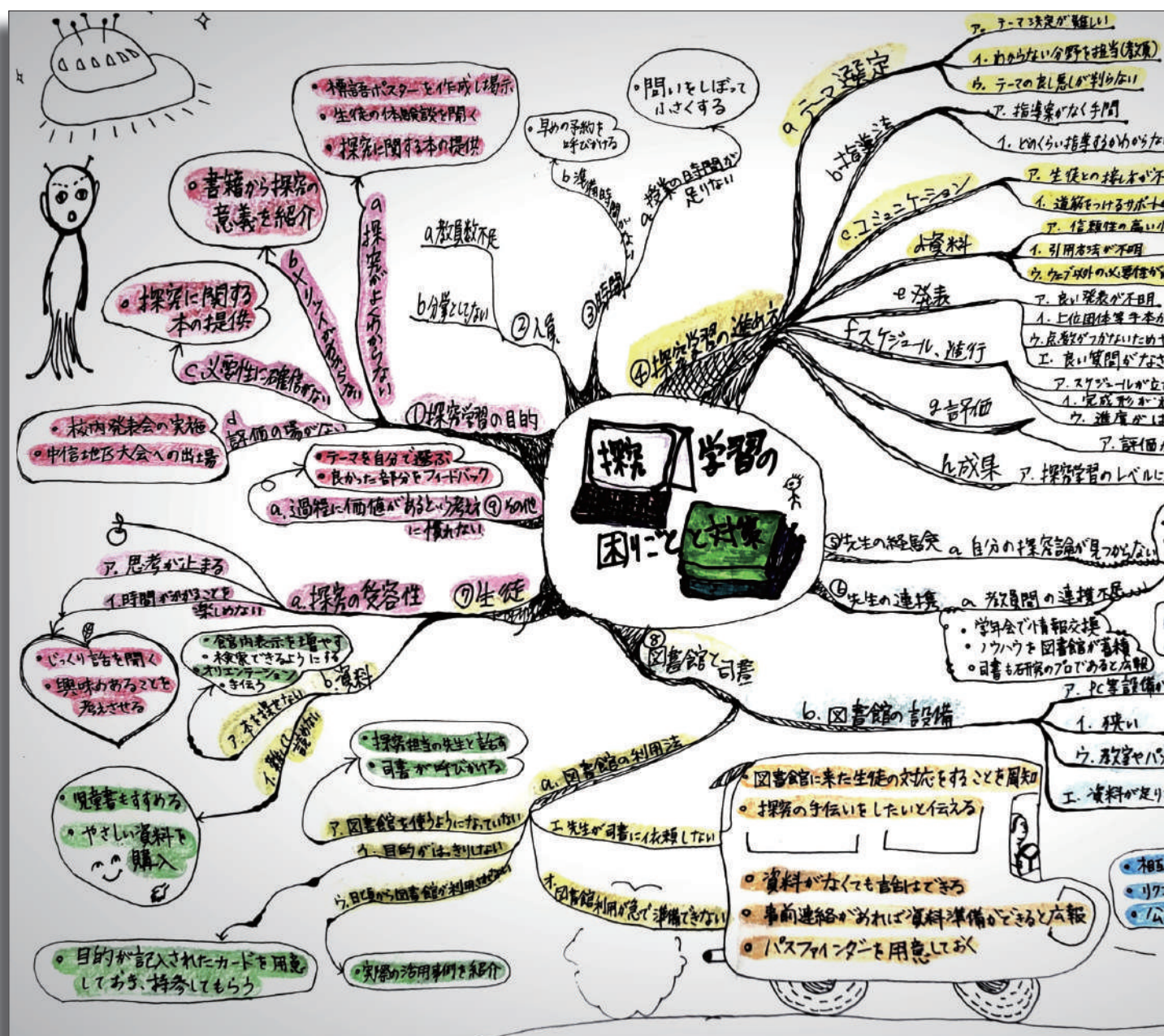
・普通高校等の一部では、すぐれた内容のみ全体の中で発表ということもある。



常任委員 吉沢道夫

穂高商業高校 手塚礼乃さんによる  
「探究の困りごとマインドマップ」

「右上の、④探究学習の進め方の枝が混んでいて、困りごとがここに集中していることがわかります」





講師を招いて製作した  
しめ縄・オータムリース

伊那北高校ではテストの午後などを利用して「ほっと一息デー」という職員向けの企画を開催しています。今年はまず6月に、校長先生はじめ先生方と蕎麦打ちをして食し、その後にニユースポーツ（クッパ）を実施しました。美味しい食事を作り身体を軽く動かす時間は、年度初めから凝り固まった心身をほぐす機会となりました。8月には講師の方をお呼びしてキャンドル教室を、また、12月2日には、同じ講師の方を招いてしめ縄・オータムリースのクラフト講座を行いました。15名が参加し、1年の締めくくりと新年への希望を胸に、和やかな雰囲気で行われました。

研究室が違い、普段はなかなか一緒に過ごす機会がありませんが、今回の職場教研を通して職員の交流の機会を持ち、同僚性を高めることができました。

## 伊那北高校で 年3回の職場教研を実施



### 「日本の民主教育」

大月書店

みんなで21世紀の未来を拓く教育のつどい（全国教研2024年8/16~18）の報告集「日本の民主教育」が発行されました（大月書店305p）。2024年度「教育のつどい」の全体会（斉加尚代さんの講演「なぜ教育とメディアは狙われるのかー歴史改ざんと『愛国』の危うさを考えるー」全文ほか）および分科会の詳細がまとめられています。長野県からのレポートも、発表者のお名前とともに、その内容と討論について報告されています。税込み3080円のところ、全教経由で **1000円** で購入可能です。購入ご希望の方は、3月末日までに、教文会議事務局までご連絡ください。お支払いやお届け等、詳細はその折にお伝えします。

### 教文通信写真館（つづき）

青い鳥というと、メーテルリンクの童話「青い鳥」が思い浮かびます。チルチルとミチルが「幸福の青い鳥」を探し求めて、思い出の国、夜の御殿などを冒険するが結局見つからない、しかし、夢から覚めると身近な鳥籠の中に青い鳥がいた・・・というようなお話です。さて、私が毎年四季折々森の中を探し求めている青い鳥といえば、オオルリ、コルリ、そして今回の写真のルリビタキです。

いずれもヒタキ科に属する鳥で、我国では「瑠璃三鳥」といわれる代表的な青い野鳥です。オオルリ、コルリは夏鳥で初夏の深山の溪流を汗かきながら登っていくと、その美しい囀りを楽しむことができます。林冠には色鮮やかなオオルリの姿を、林床の藪の間にはやはり鮮やかなコルリの姿を観察できます。

一方、ルリビタキは漂鳥に分類される野鳥で、中部山岳地帯では夏は亜高山帯の針葉樹林で美しい囀りを聞くことができますが、生い茂った葉でなかなか姿を見ることはできません。冬には丘陵帯や住宅地の公園にも姿を見せる野鳥です。冬期の松本市でも周辺の低山や公園で比較的容易に観察できる野鳥で、植物の果実や種をついばんでいる姿を観察できます。オスは頭部から背中にかけて鮮やかな瑠璃色で腹部は白、脇の黄色が目立ちます。雌は頭部から背中、そして腹部も地味な褐色で尾のミが青みが掛っています。

ところで今年の冬、私のフィールドとしている松本市界隈の里山は「沈黙の冬」という状況で、普段の冬ならば普通に観察できる冬鳥、ツグミ、カシラダカ、ベニマシコそしてルリビタキなどがなかなか観察できません。明科御法田などに飛来するハクチョウも昨年度は255羽でしたが、この1月中旬は数十羽にとどまっています（2月2日161羽）。

北方の降雪状況、気温など影響するようで、地球温暖化の影響でしょうか。渡りのコースが変化しているとの話もあります。今年は立春が過ぎて厳しい寒さになりましたが、冬鳥の動きはどうなることでしょうか。

松本市 2024/02/24